

## ★特別寄稿★

### ～『サクセス』英語・ホンモノの証し～

このたび無事に大学院留学を終え、帰国しましたので、感謝の報告をさせていただきます。

前回の現地アメリカからのメール報告でも書きました通り、アメリカでの留学の最初は、気後れの連続でした。アメリカ人とのディスカッションについていけるだろうか、授業をきちんと理解できるだろうか、と不安だらけでした。

ところが、最初に提出した課題のペーパーが返ってきた時でした。ぼろぼろの評価だろうと覚悟していたら、なんと褒められていたのです。これで自信を持つことができました。それから、提出するペーパーには、とてもよい評価をいただき続けることができました。アメリカの授業は、アサインメント\*1の量が日本とは比較になりません。とにかく、読んで、書いて、の連続です。時間との戦いで、一週間に何冊も本を読まなければなりません。けれどもサクセス外語アカデミーでの「サクセスメソッド」で鍛えていただいたおかげで、いつの間にか、大学院レベルの、そしてアメリカ人にも負けない成績をとる力がついていました。論文指導の先生が、「よくこれだけの本を読んで、こんなにきちんと文章にできるね」とびっくりされていました。

確かに、会話はネイティブにはかないません。けれども世界で通用する英語とは、くだけたスラングを使った会話ができることよりも、学術やビジネスの現場で自分の意見を論理立ててきちんと相手に伝える力であり、正確に読み、説得力のある文章を書けることのほうがはるかに大切だと知り、これこそサクセスで学んできたことでした。

この『サクセスメソッド』とは、簡潔に言えば『読み下し法 (Phrase Reading Methodology)』と『音読法 (Reading Aloud Practice)』の二つの方法を常に実践しながら、英語の特徴としくみに合わせた『Paragraph Reading』と『Passage Reading』等々で、科学的合理的な「速読速解[精解]」の力を生み出すことです。そしてこれを土台とした「英作文力とディスカッション力」を、「一石四鳥」で同時に身に付けるというものです。

実は大学院生の中でも、さらにネイティブであっても、この部分がきちんとできない人も少なくありません。おかげさまで、コースワークではオール A\*2の成績をとることができました。

論文執筆になると、さらにたくさんの本を読み、資料を探し、ひたすら書くという毎日で、語彙力や文法という基礎がいかに大切かを実感しました。結果は、自分の進んだコースではアメリカ人を含めはじめての、そしてただ一人の「Distinction\*3」をいただくことができました。

無事に帰国し、仕事を再開しましたが、今では仕事に疲れた合間の息抜きに英語の本を広げています。自分でも驚いていますが、あれほど苦労したリーディングが、ほっとして集中することができる時間になっています。これからもオンラインなどで勉強を続けていく予定ですが、サクセスで基礎を作っていただいたおかげで、留学したことがそのまま仕事の幅も広げてくれています。世界中から留学生が集まっている学校だったので、いろいろな国の友人ができ、英語でやりとりができるということも一生の宝です。本当に感謝です。ありがとうございました。

\* \* \* \* \*

SAC\*CES コメント：(\*1)欧米とりわけ米国の標準以上の大学・大学院での予習課題の量や履修期限は、日本のそれとは比較にならないほどハンパではありません。正式留学をした人なら誰でもが実感する『入り易く出難し』です。ましてや(\*2)「オール A」は、大学院生の wish(=単なる願望)に終わる場合がほとんどでしょう。加えて院生として(\*3)『(最)優秀賞』を授与されたということは、学究の国際舞台での「金メダル」という最高の栄誉に輝いたと言えます。

Y.G.さんは本稿で、『基本(力)即応用(力)』理論を含めての、サクセス英語の出発点であり目標であるその「神髄&精髓」をみごとに代弁してくださいました！ 厚く御礼申し上げますと同時に、あらためまして、Congratulations, Y.G.-san!!!